

入選

ちゅういしてくれてありがとう

香川県 満濃南小学校 二年

齋部 陽翔

ぼくは、まい日しゅうだんとう校で学校にかよっています。学校までの道は、水ろがずっとよこにつづいていて、ほそくて、くねくねとまがっています。

一学きのある日のことです。ぼくたちは、ふざけて後ろむきに歩いていました。いつもとおる道なので、車がきたら音でわかるし、あぶなくないだろうと思っていました。すると、道がまがっていて、見えないところからきゅうに車がきたのです。

ぼくはびっくりして、立ったままうごけませんでした。車のうんてん手さんは、おどろいた顔をしていました。

「後ろむきにあるいていたら、あぶないでしょ！ぶつかるよ！水ろの水もふえてきて、おちたらおぼれてしまうよ。」と大きな声でちゅういされました。

ぼくたちの目を見て、ととしんけんな顔をしていました。ぼくは、車がきゅうに来たことにおどろいたのと、ぶつかりそうになったこわさで、なにもへんじができませんでした。その日は、学校についてからも、ずっとドキドキしたままでした。

それからまい日、車のうんてん手さんとは、同じ時間に同じ場しょであいました。じっとみられているような気がして、ぼくは車の方を見られませんでした。でも、ぼくたちが一れつにならんでとう校しているとき、そつうんてん手さんのかおを見ると、ニッコリわらっていたのです。

ぼくはびっくりしました。ちゅういされた日には言えなかったけれど、その日かえってから、お母さんにあったことをぜんぶ話しました。お母さんは、

「その人は、はるとたちのことを考えて、ちゅういしてくれたんやね。だから、ちゅういしたあと、きちんととう校しているみんなを見て、うれしくなったんじゃないかな。」と言いました。

ちゅういされたときはつらかったけれど、ぼくたちのことをしんぱいして言ってくれたんだと思うと、うれしいような、なんだかふしぎな気持ちになりました。

そのあと、お母さんにはふざけながらとう校していたことをしかられたけれど、きちんと話をしてよかったと思いました。

「あい手のことを考えて、ちゅういしたり、しかったりすることは、ゆう気があることなんだよ。その人にきらわれたりするかもしれんやろ？それでも言ってくれたってことは、はるとたちのことをたいせつに考えてくれているしょうこやね。ありがとうって気持ちになるね。」

と、お母さんは教えてくれました。

二学きになって、しゅうだんとう校でその人にあつたときは、

「おはようございます。いつもぼくたちのことを見ていてくれて、ありがとうございます。」

と、大きな声で言いたいです。